

具象絵画35歳以下の有望新人

第4回 絹谷幸二賞に 後藤 靖香氏 決まる
同奨励賞に 指田 菜穂子氏

35歳以下の若手画家を応援し、具象絵画の可能性を広げることが目的とする「絹谷幸二賞」の第4回受賞者が決まり、主催する毎日新聞社より発表された。本賞の絹谷幸二賞に後藤靖香氏（1982年2月広島県生まれ、30歳）、同奨励賞には指田菜穂子氏（1983年11月埼玉生まれ、28歳）、ともに女性画家が選出された。受賞者には賞状と賞金（本賞に100万円、奨励賞に50万円）が贈られる。賞の贈呈式は3月16日、東京千代田区の如水会館で行われる。



絹谷幸二賞
後藤靖香氏



「床書キ原寸」(おおさかカンヴァス推進事業
(主催:大阪府))より

4回は2011年12月末日で35歳以下の画家。同年、国内開催の展覧会に出品された具象的傾向の絵画に限定。国籍は問わない。選考委員は、今年度の第4回から新たに山下裕二・明治学院大学教授、OJUN・東京藝術大学准教授、原久子・大阪電気通信大学教授の3氏が務める。

主催者発表によると、その選考は毎日新聞社が全国の美術館学芸員や評論家、ジャーナリストらに推薦を依頼。今回は42人に推薦依頼し、候補者は21人（複数推薦1人）。3人の選考委員によるポトフォリオ審査や作品視察、2度の選考を経て受賞者が決まった。

第4回絹谷幸二賞を受けた後藤靖香氏は04年京都精華大学芸術学部造形学科洋画コース卒業、広島県在住。授賞対象は個人展「床書キ原寸（おおさかカンヴァス推進事業2011選出作品）」の成果（大阪市・名村造船所跡、2011・11・23〜12・23）。他に「絵画の庭ゼロ年代日本の地平から」（2010、国立国際美術館）出品。受賞歴に、「V OCA展2011 新しい平面の作家たち」奨励賞などがある。

同賞は現代日本を代表する画家のひとりで日本芸術院会員・独立美術協会会員として活躍する絹谷幸二氏が、08年「これからの若い画家を励ましたい」と毎日新聞社に提案、その意志を受けて創設された。絹谷氏はかつて洋画壇の登壇門である安井賞を受賞し、それで大きな力を得たという自らの体験が賞創設の元にある。同氏が資金を提供（ただし審査等には一切ノータッチ）、毎日新聞社が主催し、協賛に三井物産が加わる。



同奨励賞
指田菜穂子氏



「ほろよい」2011 キャンバスに
アクリルグアッシュ 112×145.5cm
高橋コレクション (写真提供:西村画廊)

2011・9・27〜10・22。他の展覧会歴に「2005 G EISA I # 7」、同06年#10など。作家近影は2点とも毎日新聞社提供。

賞の対象は、当該年(第